

平成年24年度 第2回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

開催日時 平成24年10月18日(木) 午前10時30分～

開催場所 本庁舎3階 302会議室

出席者 (1)委員：下津谷委員長・新山副委員長・小川委員・佐藤委員
石神委員

(2)市側：川西教育長・山崎生涯学習部長・阿久津文化スポーツ振興課長
・三石副主幹・後野主査捕・松丸主事

欠席者 なし

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ…下津谷委員長
- 3 教育長あいさつ…川西教育長
- 4 議 題

会議録署名人の選出について

会議録署名人を新山副委員長に指名（名簿順）。

【報告事項】と【協議事項】を入れ替えて進めることが了承され、進めることとした。

【協議事項】

- (1) 市指定文化財の指定について（諮問）

教育長より委員長に諮問書の授受を行った。

事務局から資料に基づき主旨の説明を行った。

【質疑】

委員： 庚申講は、元禄期には、東葛地域だけでなく全国的に、男だけで集まるものであった。女性が登場するのは早くて享保末以降、特に天保期以降から明治期は男女一緒となった。もともとは男だけの集まりであった。この場合には、村全体で講を結んでいて、男女の別がわからない。おそらく、古い時代は、男だけの参加という形であったのであろう。そういう特徴が見られると非常に位置づけとして、信仰の変遷がわかっていい。そのあたりが明確に調査できなかったのが残念だが、寛文・延宝期、1640年～50年くらいに、江戸時代の村が成立してくる。そういう中で、庚申講は、いちやく五穀豊穰・天下泰平の願いを込めて行われていた。栗野は、特徴があり、以前この地域の社会情勢を分析したことがあるが、幕末から明治期に没落した家が少ない。通常は、大きな変化で、地主クラスが没落するが、栗野は、近世からの社会生活がそのまま残っている。それが、信仰が200年も続いた大きな要因ではないだろうか。そういう意味では、文化的な価値、あるいは歴史的な価値が高いと言えるだろう。

もうひとつ、調査すべき点は、報告書にも述べてあるが、庚申の年に文字塔から像塔に変更している点である。おそらく費用もかかっている。そういう意味で意識的に、60年ごとにと意識が明確に出ている。今後、こういう話をしていくと、今の人たちも庚申の年に変えようかという意識が出てくるのではないか。

こういう時代であるから、農業が専業でなくなり、農家でありながら兼業である点で、大きな信仰心をなくしてしまう場合があるが、その点、梨農家を中心として、講がしっかり根付いているので、当分の間は続くのではないか。たとえ、造塔がストップしても、これだけのものは価値がある。百庚申は一時的で終わってしまうものである。県内でも継続している所はあるが、このように規則的に継続しているところはない。庚申信仰の古い形を類推できる貴重な庚申塔群ではなからうか。

説明会に参加した人は少なかったが、参加した人は、そういう話だったらわかると言ってくれていた。しかし、中心となってまとめましょうという話まではいかなかった。地域をとりまとめる方にまとめてもらうのが一番であるため、最後はこういう形でまとまった。市の文化財としては、十分価値があるのではないかと判断した。

- 委員長： 石工はわかっているのか。
- 委員： 石工は若干わかっている。古いのがわかるといい。
- 委員長： 石の産地もわかるといい。
- 委員： 石神委員にお願いしたい。石の種類についても分析したい。
- 委員： 石の問題はどうか？
- 委員： 石塔の形でみても、最初の板碑型に始まり、笠付型、次が、板駒型、駒型と、江戸の庚申塔の形の流れにあっていて、江戸の流行をきちんと継承している。5番が非常に面白い。宝暦2年の形態は非常にめずらしい形態で、江戸川沿いから利根川流域に見られ、東葛地域に若干分布していて、他の地域では見られない、非常にめずらしい形で、特殊な形態である。一番遠いところでは、埼玉県の北川辺に一つある。それより遠いところにはない。これだけ揃って、色々な形が見られる点でも、非常に貴重なものであることは確かだと思う。
- 委員長： ここまでまとめるのに、事務局も大変苦労したと思うが、いろんな先生から話があったとおり、個人個人は良いと思っても、全体をまとめるのは、地域の問題もあるわけで、こういう形で諮問を受けたわけだが、今、お2人の先生のお話で、だいたいお分かりかと思う。後で、諮問について答申をしなくてはいけない。答申について、日程を調整したい。指定をするについては、皆さん、ご異議ないと思う。

(次回文化財審議会は、3月21日、午前10時30分からと決定)

- 委員： 今後、調査については、交通費実費くらいの配慮はいただけないだろうか。
- 委員： 古い民俗学辞典にお坊さんが写っている栗野の庚申塔に関する写真が掲載されていた。
- 委員： (栗野は) ある程度、着目はされていたようで、石仏辞典にも掲載されている。栗野の庚申塔は昔から注目されていた。お坊さんが読経しているのは、江戸時代以前の別当寺院が行う古い様式である。指定することによって、今の形式は残っていくので、分析は可能かと思う。
- 委員： 年を決めて造っていた例として、船橋の鈴身町にもあって、お寺の境内に並んでいる。
- 委員： 周辺の調査ということで、鈴身町へは事務局に調査をしてもらっている。八千代のほうにもある。
- 委員長： そういう意味でも、調査費用予算を考えてもらえるとありがたい。

【報告事項】

- (1) 平成24年度文化財保護主要事業の進捗状況について
事務局より資料に沿って報告 (質疑なし)
- (2) 国史跡下総小金中野牧跡周知普及事業について
事務局より資料に沿って報告

【質疑等】

- 委員長： 国史跡の周知普及事業はいろいろやっていて、大変だが、それなりの成果はあがってくるだろう。
市外から、史跡探訪会などの捕込へ見学する要望はあるのか。

- 事務局： 探訪会などの見学は、資料館の方で受け付けている。印西市のNPOが、毎年見学に来ているようだ。
- 委員： 郷土資料館との密な連絡体制はないと思うので、作っていく必要性はあると感じている。
- 事務局： 文化係職員3名が今年から学芸員の発令を受けた。これを期に、資料館で学芸員会議を開くことになった。月に一度、お互いの業務状況や今後のことなどの意見交換を行い、情報の共有化を図っている。現在は、来年度のこども講座や出前授業について話し合っている。
- 委員： それは良い傾向である。
- 委員： 昨年、鎌ヶ谷小学校で開催されたおしゃらく踊り発表会が、担当していた先生が異動し、今年は中部小学校で開催される。市指定文化財のおしゃらく踊りについても、発表の場があるといい。将来的には、考えていただけるといい。

(3) 国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業について
事務局より資料に沿って報告

【質疑等】

- 委員： (捕込内に) 竹は大量に繁茂するのか
- 事務局： 捕込内は、篠竹程度であるが、貝柄山公園側の斜面の竹は、あっという間に伸びて、風雨などにより倒れたりすることもある。
- 委員長： 竹の根切りはしているのか。
- 事務局： 斜面地のため、土留めにならなくなるので、竹の根切りはしていない。竹の切り詰め作業を行い、伸びすぎた竹の対応を行っている。
- 委員： 葉が全部出た時に切るのではなく、筍の時に切ると、いいと聞く。伸びてもある程度で止まるということである。
- 委員： 植物関係のことで発言したい。里山の独特の植物であるヤマツツジが捕込に1本残っている。それを大事にしていると、見学の時に多面的に見てもらえていい。捕込にあって、大事にしておいた方がいい植物である。ヤマツツジは、昔はいたるところにあったが、今では数が減少してしまった。

(4) その他

- 委員： 事務局より資料に沿って「千葉県緊急雇用創出事業補助金の要望調査」について報告
- 委員： これで、中沢貝塚の整理は進んだのか。
- 事務局： これにより、土器・石器については、洗浄・注記についてはすべて終了する予定である。貝層サンプルとして採集した貝殻については、まだ大量に残っている。
- 事務局： 佐津間の自治会館が来年の3月くらいには、完成し、そこには地元出身の渋谷総司の資料室が設置される予定である。

5 閉会

【会議終了】

以上会議の経過を記載し、相違ないことを証する。

平成24年 10月 18日

署名人 新山 恒雄